

< 企画書 >

# 日本一の **マグロ船** に学ぶ！ ストレスを力に変える技術



株式会社 ネクストスタンダード

〒190-0001 東京都 立川市 若葉町 2-39-8

TEL : 042-848-3489 / FAX : 050-3488-0098

<http://www.nextstandard.jp/> メール : [info@nextstandard.jp](mailto:info@nextstandard.jp)

## 【 概要 】

マグロ船では、コンビニはおろか病院もない、私たちには考えられないほど不便な場所で生活と仕事をしています。



おまけに船は狭く、ひとり当たり“約2m”しかない空間で、40日以上も同じ人と顔を合わせなければならない、とてもストレスがたまりやすい仕事です。

ですから船によっては、船員同士の仲が悪くなり、ときには重大な事件に発展してしまうことすらあります。

私が乗せられた船は幸い、日本でトップクラスの売上を誇るマグロ船でした。

この船では、ストレスがたまりやすい環境だからこそ、それを逆手に取り、『仕事』を『ゲーム』ととらえ、「難しいからやりがいがある」という意識を持っていました。

その結果、ストレスをもろともせず、漁師たちはイキイキと働き、かつ、マグロもたくさん取ることができていたのです。



このセミナーでは、そんなマグロ船での、「ストレスを力に変える方法」についてお話をし、ストレスをバネにできる人材を増やす事を目指しています。



## 【『ご依頼』から『講演』までの流れ】

### 1. 「開催日程」の決定

候補日を、希望順に3つほど、メール、または、お電話でお教え下さい。

そのなかから、日程を決定させていただきます。



今日から3か月以内での実施になると、塞がってしまっている日も多いのですが、もし、塞がっているときは、日程を再調整させていただきます。

講師料につきましては、そのとき、お気軽にお問い合わせください。

講師料は、『時間の長さ』によってのみ決まります。

(ただし、別途、『交通費の実費』はかかります)

なお、『講演時間』は、『1時間』から『24時間』まで、自在に対応できます。

### 2. 「依頼書」へのご記入

日程が決まりましたら、「依頼書」に、ご記入をお願いします。

(「依頼書」は、ご依頼を頂いた際、メールにてお送りします)

ご記入頂いた「依頼書」を拝見したうえで、お電話にて打ち合わせをさせていただきたいと思っております。

### 3. テキストの送付

開催の10日前には、テキストをメールでお送りします。



### 4. 講演当日

みなさまに楽しんでいただき、かつ、学びになるよう、全力で臨みます。

## 講師プロフィール

齊藤 正明 (さいとう まさあき)

マグロ船式 人材コンサルタント

株式会社ネクストスタンダード 代表取締役 社長



部下を育てられる上司を育成する研修のプロ

評判が評判を呼び、講演回数は、業界トップクラスの年間 200 回以上

私は「日本一の船！」と、言われるマグロ船に乗せられた経験があります。『マグロ船』という職場は、一般の会社と比べると、狭くて不便な環境でした。

それだからこそ、皆が力を合わせ、助け合うことで安全を守り、かつ、大漁で帰港を果たしていました。

研修では、『マグロ船』という、狭くて不便な環境だからこそ培われた、『人を活かすコミュニケーション』や、『困難を前向きに受け止める姿勢』を、演習を交えながらお伝えしています。

### 【 略歴 】

2000 年

北里大学 水産学部 卒業。

バイオ系企業の研究部門に配属。



勤務先では、所長の無理な命令のため、スタッフは体調を崩したりなどし、業績も雰囲気も低迷していた。

ある日、齊藤自身もまた、理不尽な業務命令により、マグロ船に乗せられる。

しかし意外にも、狭いからこそ仲良く助け合う漁師たちの姿に感銘を受ける。



帰港後、漁師流のコミュニケーションを社内に取り入れた結果、社風改善に成功する。

2007 年

退職し、人材コンサルタントとして起業。

マグロ船式の人材育成で企業の業績向上に貢献する。



2011 年

TSUTAYA が主催する、『第2回 講師オーディション』で グランプリ を受賞 。

全国の TSUTAYA にて、講演 DVD が レンタル開始 になる。

2012 年

年間 200 回以上の講演や人材育成の指導をこなし、日々、全国を飛び回る。



## 【 著書 】

『会社人生で必要な知恵はすべてマグロ船で学んだ』 マイナビ新書

『欠点を直さずに幸せに生きる方法』 サンマーク出版

『マグロ船式 会議ドリル』 こう書房

『マグロ船で学んだ人生哲学』 講談社

『一歩前に出られないあなたに眠る37の才能』 ビジネス社

『マグロ船仕事術』 ダイヤモンド社

『仕事・人間関係・人生で「このままじゃイヤだ！」と思ったとき読む本』  
中経出版

『仕事は流されればうまくいく』 主婦の友社

『マグロ船で学んだ「ダメ」な自分の活かし方』 学研パブリッシング

『猛省キリギリス』 廣済堂 ※ 電子書籍として出版

『自己啓発は私を啓発しない』 マイナビ新書

『そうか！「会議」はこうすればよかったんだ』 マイナビ新書

『海の男のストレスマネジメント』 角川フォレスト



【メディア掲載】 (掲載されたメディアの一部をご紹介します)



ホンマでっか!? TV (フジテレビ)



暴露ナイト (テレビ東京)



週刊ダイヤモンド



週刊ポスト



日経コンピュータ



週刊現代



AERA



週刊朝日



朝日新聞



日刊ゲンダイ

## 【実績】

・トヨタ自動車・三井住友銀行・みずほ情報総研・三菱総合研究所・SMBC  
コンサルティング・三井住友海上・鹿島建設・清水建設・東レ建設・新日鉄  
住友エンジニアリング・積水化学工業・ダイハツ工業・エーザイ・田辺三菱製  
薬・大正製薬・中外製薬・味の素・味の素冷凍食品・明治製菓・森永製  
菓・サントリープロダクツ・日清オイリオグループ・日野自動車・マツダ・  
大和ハウス工業・竹中土木・中外製薬工業・東鉄工業・豊田通商・野村建  
設工業・日本冶金工業・西濃運輸・荏原製作所・ジェイテクト・神戸製鋼  
所・日本ガイシ・ヤマハ発動機・住友林業・日東電工・パナソニック電工・  
イトーキ・帝人・TOTO・東レ・トヨタ紡織・パナソニックESエンジニアリ  
ング・日立製作所・セキスイハイム・積水ハウス・リクシル・京葉都市開発・  
UR都市機構・都市再生機構・いすゞ自動車・デンソー・大阪ガス・関西電  
力・沖電気カスタマアドテック・東邦ガス・JX 日鉱日石エネルギー・JSR・  
アステラス製薬・大丸・タキイ種苗・ベネッセコーポレーション・京都生活協同  
組合・生活協同組合パルシステム東京・中京テレビ放送・日本航空・東京急  
行電鉄・ネクスメンテナンス関東・キヤノン・東芝・東芝ソリューション・  
NTT データ・富士通・NEC・協和エクシオ・ニフティ・国土交通省・農林  
水産省・高知県・群馬県・東京都神社庁・府中市・府中文化振興財団・  
特別区職員研修所・千葉市・大妻女子大学・関西学院大学・国際基督教大  
学・群馬大学・芝浦工業大学・自由が丘産能短期大学・洗足学園・中小  
企業大学校・東京薬科大学・福井県立若狭高等学校・横浜市立大学・立教  
大学・同志社女子中学校高等学校・福島県立医科大学・青梅市保育園連合  
会・豊岡市保育協会・千葉県公立高等学校事務職員会・日本郵便・ビザワ  
ールドワイドジャパン・損害保険ジャパン・日本生命保険相互・NKSJ ひまわり  
生命保険・JA 岩手・JA 東びわこ・JA 和歌山・JA 愛媛・足利銀行・秋田  
銀行・岩手銀行・京葉銀行・紀陽銀行・滋賀銀行・高崎信用金庫・中京  
銀行・鳥取銀行・百五銀行・福井銀行・北陸銀行・埼玉縣信用金庫・北  
洋銀行・鳥取銀行・四国銀行・農林中央金庫・西部地方銀行・福島銀  
行・興産信用金庫・君津中央病院・篠ノ井総合病院・青森県看護協会・香  
川県看護協会・奈良県看護協会・東京都介護福祉士会・老人福祉施設協議  
会・加古川市社会福祉協議会・日本産業カウンセラー協会・日本生産性本  
部・東京商工会議所・日本電設工業協会・秋田県配電工事安全推進協議  
会・宮城労働基準協会・長野県空調衛生設備業協会・埼玉県製薬協会・UI  
ゼンセン同盟・秋田県労働基準協会・石黒地区労働基準協会・神奈川労働安  
全衛生協会・沼津労働基準協会・全国共済農業協同組合連合会・伊勢原市  
農業協同組合・茨城県社会福祉協議会・東京都・関東電気保安協会

## 【 お客様の声 】

- ・ 受講した全員が起きている講演会は、企画してはじめてでした。

理論理屈ではなく、珍しい体験での話はおもしろいですし、それに厳しい環境で培われた教えは身になります。（電設業）

- ・ “雨ガッパ姿”で登壇されたときは、急な何かのトラブルで工事の人が走って来たのかと思いました。

「何事だろう?!」と、驚くと同時に心を掴まれました。

弊社のような現場系の仕事の場合、講師があまり固い話をすると寝てしまうことも多く、雨ガッパのような現場の姿で話して下さったことがよりプラスでした。（建設業）

- ・ 普通、講師は堂々としているのに、齊藤さんの場合、講演中でも腰が非常に低く、「講師」というより「サービスマン」という感じでした。

最初は頼りないようにも見えたのですが、このやりかたのほうが、上から目線で教えられるよりも受講者たちは素直に講義を聞いているようで、研修効果が高かったように思います。（建設業）

- ・ 「研修」というよりも、まるで「エンターテイメント ショー」でした。非常に楽しく笑いながら参加させていただきました。

そのおかげで丸1日という長い研修だったにも関わらず、感覚的にはあっという間に終わってしまい、もっと聞いていたいと思いました。（住宅メーカー）

- ・ 「マグロ船での体験談」という普段聞けない話を聞かせてくれるので、つい話に引き込まれました。そして気づくとそのなかに「学び」の要素が入っており素直に話を聞けました。（鉄道工事）